

明治四十一年十月第一改版

日本水路誌

南西諸島、臺灣、澎湖列島

第二卷下

〔沖縄県公文書館〕



* G00019217B *
* 日本水路誌 南西諸島台灣 *

日本水路誌第二卷下序

本卷ハ現行日本水路誌第二卷中ヨリ其第三編(南西諸島)ヲ割キテ第一編トシ日本水路誌第二卷附錄(臺灣及其附屬諸島)ヲ收メテ第二編トシ専ラ最新記事ニ據リ取捨増補シ務メテ煩ヲ去リ簡ヲ主トシテ編纂シタルモノナリ而シテ其編纂修正ニ用ヒタル主要ノ資料ハ左ノ如シ

第一編中大隅群島ハ明治三十七年荒畠海軍水路中監等ノ實測記事(日本水路誌第二卷追補第四)ヨリ奄美大島ハ明治十九年海軍大尉加藤重成同三十九年值賀海軍水路中監及天龍艦長上村經吉ノ各水路記中ヨリ沖繩群島ハ明治二十六七年海軍大尉三浦重鄉同三十八年大後海軍水路中監ノ各實驗記事中ヨリ取り其内瀬底鋪地ハ明治二十八年澤近江丸艦長ノ航海記事ヨリ之ヲ補ヒ先島群島ハ主トシテ明治二十年及二十一年海軍大尉加藤重成等ノ實驗記事ヨリ取り其内狩股鋪地ハ明治三十九年明石丸航海長富士川海軍大尉ノ實驗記事ヨリ船浮港ハ明治二十八年澤近江丸艦長ノ航海記事中ヨリ補ヘリ又大東島ハ明治三十八年井内松江丸艦長ノ大東島視察報告(水路報道第八三號)ヨリ取ル

第二編中臺灣東岸中鶯鑾鼻ヨリ卑南泊地マテハ明治四十一年海軍中佐上野亮ノ

實驗記事ヨリ烏石鼻ヨリ三貂角ヲ經テ北岸富基角マテハ明治三十八年荒畠海軍
水路大監ノ實驗記事ヨリ取り富基角ヨリ安平附近ニ至ル北岸及西岸ハ明治三十
年至三十七年ノ我海軍ノ諸測量報告等(日本水路誌第二卷附錄追補第一)ニ據リ
安平ヨリ鶯鑾鼻マテハ明治三十九年至四十年海軍中佐上野亮ノ實驗記事ヨリ澎
湖列島ハ明治二十九年ヨリ同三十三年ニ至ル我海軍ノ諸測量報告ヨリ取ル
以上列記ノ外明治三十五年山川操江航海長報告、同三十七年薄雲艦報告、同三十五
年度臺灣總督府第四統計書、臺灣氣象報文第四、地學雜誌、海軍雜誌、海商通報其他明
治四十一年九月迄ニ得タル諸報告及千九百四年出版英版水路誌等ニヨリ改正セ
シ所少ナカラス

本書中誤謬ヲ發見スルカ又ハ改補ヲ必要トスル實驗ヲ爲シタルモノハ速ニ水路
部ニ報告アランコトヲ希望ス

明治四十一年九月

水路部長 中 尾

雄

引索圖海係關下卷二第誌路水本田

124°

126

128

130

三

10

1

卷之三

浦大216米

卷之三

海東

雷

鳥

238

島

230
蘇248*

223*



蘇248*



此島ハ人口約七百八十、牛數百頭ヲ牧養ス地味稍ヤ膏腴ニシテ五穀ヲ產ス

與那國島
ヨナクニ

八重山列島ノ最西島ニシテ石花質石灰岩ヨリ成リ高約七〇〇呎、諸丘脈ハ總テ樹木繁茂ス○沿岸ニ諸部落アリ主村ハ北岸ニアル小灣ノ濱ニアリテ宗納ト曰フ該小灣ハ島民之ヲ口津ト稱ヘ約五十噸ノ和船ヲ泊シ得ヘシ然レトモ灣口狹隘且ツ淺水ニシテ唯大高潮平波ノ時ノミ入進シ得ヘシ○好天ノ時ハ該灣口ノ外側、石花及ヒ沙底ノ處ニ一時ノ錨地ヲ得ヘシ

島内人口二千六百餘、數多ノ牛馬ヲ牧養ス

破浪岩

一八四三年英船 Helen Stewart ハ與那國島ヨリ北西彳西約十浬ニ東西ノ長三浬ノ破浪岩並ニ同島ヨリ南西彳西約十浬ニ他ノ破浪岩アルヲ報告セリ○此等二岩ハ其有無疑ハシト雖此近海ニ於テ數多ノ點灘アルニ徵スレハ強チ其存在ヲ否定スル能ハサルニ依リ上記位置附近ヲ航スル時ハ警戒ヲ要ス

赤尾嶼 [Raleigh rock]

北緯二五度五五分東經一二四度三四分ニアリテ一礁脈ヨリ高ニ七〇呎ニ急起シ

四面垂直ヲ成シ遠距離ヨリ望ムトキハ帆走セル和船ノ如シ

魚釣島 [Ho a pin su]

西表島ノ西端ヨリ北方約八十八浬ニアル孤立群嶼ノ南西島ニシテ高一、一八一呶、島頂ノ南側ハ險崖ヲ成シ東側ハ漸降ス○此島ハ不毛ニシテ東陂ニ數個ノ淡水池アリ

尖頭諸嶼 [Pinnacle Is.]

魚釣島ヨリ東方ヘ六浬、北方ヘ四浬ノ間擴延シ且ツ處々深水ヲ有スル礁脈上ニ位セル平岩及ヒ針狀ヲ成セル尖岩ヨリ成リ何レモ灰色ノ玄武岩ニシテ唯草ヲ生スルノミ○此諸嶼ニハ屢ハ多數ノ海鳥群集スルコトアリ

黃尾嶼 [Ti a usu]

魚釣島ノ北東方約十五浬ニ位シ綠斑岩ノ大塊ヨリ成ルカ如シ○此島ハ海面上約六十呎ノ處ヨリ高六〇〇呎ナル島頂ニ至ル迄灌木ニ蔽ハレ更ニ樹木ナシ○此島ニモ亦無數ノ海鳥棲息スルコトアリ○此島ノ中心ハ約北緯二五度五八分東經一二三度四〇分ニ圖載シアリ

明治四十一年十月二十日印刷
明治四十一年十月廿三日發行

定價金九拾錢

發行者 水路部

東京市京橋區八官町十九番地

忠愛社

印 刷 者 佐 藤 喜 市



販賣所 東京市麴町區有樂町一丁目一番地
日本郵船株式會社